

第2回 鳥海ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

－ 議事概要 －

- 開催日時 平成23年2月23日（水）15:00～16:45
- 場所 秋田河川国道事務所 大会議室
- 出席者
 - 構成員 秋田県知事、由利本荘市長
 - 検討主体 東北地方整備局 河川部長、
秋田河川国道事務所長、鳥海ダム調査事務所長、河川調査官

● 討議概要

1. 検証対象ダムの概要・事業等の点検について

- ・鳥海ダム調査事務所が設置されてからもう既に17年が経過した。今回の検討の場の内容には、これまで費やした時間や成果が無駄にならないように活かしてほしい。

2. 複数の治水対策案の立案について

- ・子吉川河川整備計画は、今後30年の計画であり、過去の水害や濁水を踏まえて、鳥海ダムが必要であると位置づけられている。今更、これだけ多くの対策案を論ずること自体、時間と経費の無駄ではないかと思われる。
- ・複数の対策案の中で、部分的に堤防の一部を低くする案などは、本当に地域住民から理解が得られる方策なのか疑問を感じている。
- ・特に近年は、異常気象による災害が地球規模で大きな議論の的にもなっており、子吉川のような鳥海山から河口まで距離が短い河川では、ダム以外の治水対策案が現実的に意味をなすのか疑問である。大規模な水害は、いつ来ないとも限らない。特に今年のように記録的な豪雪の年は、春先の雪解け時の水害も心配される。それだけに早期のダム建設が必要ではないかと思われる。

3. 複数の利水対策案の立案について

- ・由利本荘市の水瓶である黒森川水源は、集水面積が約6km²と狭く、この流域に降る雨だけが頼りの非常に不安定な水源であり、降水量の少ない年には何度となく濁水に見舞われている。また、県内一の広大な面積の本市は、水道水源が河川支流最上部に点在し、小規模

で不安定な水源が多く、渇水に伴う上水道への揚水不安に市民はおびえている。また、塩水遡上による稲作への影響にも市民はおびえている。

- ・子吉川は鳥海山に源を発し、延長61kmで日本海に注ぐ河床勾配が急な河川である。しかも貯水施設を有しないことから、安定利水のための流況の改善にはダム建設が必要不可欠である。
- ・由利本荘市には電子部品製造業大手のTDK株式会社の国内最大級の工場であるTDK-MCC本荘工場があり、関連企業も多く集積している。
これが地域経済と雇用を大きく支えている。今後の状況により、同社の稼働率向上が見込まれるが、安定した水道供給が出来なければ、地域経済の発展はおろか本市の将来にも大きく影響してくる。本当にダム以外の方法で、水道の安定供給が出来るのか非常に疑問を感じる。

4. その他

- ・当初は、今年の夏頃までには検討の結果が出るようにも伺っていたが、本市としては、出来るだけ作業を早く進めてほしい。
- ・全国で一斉に開始されたわけだが、最終的なアウトプットは全国で一斉に発表になるものなのか示してほしい。
[事務局から、一斉ではないものと認識している。とコメント。]
- ・最終的な方向性が定まったとき、地元との意見が食い違う場合はどうなるのか。
[対応方針を決める前に関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者の意見を聴くことを事務局から説明。]

(平成23年 3月11日 事務局取りまとめ)